

夏休みのひととき、家族で怪談を聴こう・見よう！

朗読で聴く怪談・第7回「小泉八雲の世界」

小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は新宿区とは大変ゆかりのある文人で、その晩年の5年ほど、若松地区の富久町（現在の成女学園女子中学高等学校）に住居を構え住んでいました。明治23年（1890）に現、島根県松江市に來日、英語教師となり、元、武士の娘、「小泉セツ」と結婚、日本に帰化し「小泉八雲」と名乗るようになりました。こよなく日本を愛し「八雲」の生まれたギリシャ、レフカダ町と新宿区は、相互に交流を重ね、理解と友情を深めるため、平成元年10月に友好都市となり、それを記念し、新宿区は平成5年、区立大久保小学校の近くに「小泉八雲記念公園」を作りました。

ひっそりとした公園が皆さんの住むすぐ近くにあります。古代ギリシャの柱や中世風の建物を是非、見学して下さい。

プロの人達による朗読と、日本古来の和楽器「尺八」や「ヴァイオリン」の生演奏とのコラボレーションで、八雲の怪談「和解」「食人鬼」が観る人を幽玄の世界へと誘います。ちょっとこわい話だけど、友だちや家族と聴きにきてくださいねー！

作品介绍

「和解」（わかい）

京都に住む一人の若い侍は、自分の出世のため善い妻を離縁してしまいました。それから後、かなり身分の高い家柄の娘と再婚し京都を離れたが、冷酷な新しい娘とは上手くいかなかった。自分勝手に離縁したことを悔やみ、先妻のことが忘れられず一緒に暮らしていた家に戻って見ると……。

「食人鬼」（じきにんき）

夢想国師という禅宗の僧が美濃（岐阜県）の国を旅して道に迷い、長いあいだ、さまよい歩いていたが漸くひとりの老僧と出会った。老僧に名主の家を教えて貰い泊まることになったが、若い男は、父が亡くなりこのあたりのしきたりで死人があった晩は村には誰も残ってはならないという……。

出演者プロフィール

「河原田ヤスケ」（かわらだ やすけ）朗読・食人鬼

舞台、テレビ、方言指導等で多数活動。舞台/桜の園・蟹工船・テレビ/NHK・天地人・方言指導（会津弁）/龍馬伝・新撰組血風録・八重の桜・花燃ゆ 希楽星所属・（協）日本俳優連合理事・日本新劇俳優協会会員

「酒井 麻吏」（さかい まり）朗読・和解

文学座17期・演劇集団円出身・「優曇華の会」主宰・舞台・テレビ・司会・声優等で多数活動。舞台/人生はガタゴト列車に乗って・テレビ/チームバチスタの栄光 （株）アイトゥーオフィス所属・日本俳優連合総代。

「松本 浩和」（まつもと ひろかず）尺八

墨田区両国で「尺八工房まつもと」を開き、尺八の製作、演奏、教授指導を行なっている。市川市支援制度団体「玉松会」で、保育園、福祉施設等での演奏を通じて、和楽器の普及活動にも努めている。

「有働 皆美」（うどう みなみ）ヴァイオリン

NHKコンサートマスター篠崎史紀氏率いる東京J.Oでの演奏会に多数出演。ブータン国王子、同国首相の歓迎パーティ等、各種イベント、クラシックの演奏会で活躍。武蔵野音楽大学音楽学部器楽科卒。音楽プロデューサー。